

水と緑あふれる地球のために

土壌拡散処理システム

S R S－E P S 施工要領書

駐車場仕様

株式会社 エスアールエスディービー社

工事を始める前に

1. 必要材料

イ) 流入桝 (溜め桝)

φ 300 以上の桝 (小口径桝は不可)

ロ) 流入管配管材料

φ 75 パイプ (おおむね 1.0 m)

φ 75 エルボ 1 個 (1 列に 1 個必要)

φ 75 キャップ 1 個 (")

ハ) 洗浄管接続用材料

φ 50 パイプ (おおむね 2.0 m)

配管用パイプ (φ 20 ~ φ 50 おおむね 2.0 m)

エルボ 5 個 (使用径は配管用パイプの径によって異なる)

φ 50 ソケット 1 個 (検知管の延長をするとき必要)
(1 列に 1 個必要)

異径ソケット 1 個 (配管用パイプが φ 50 以下の場合必要)

接着剤

ニ) 防護蓋材料

検知管用防護蓋 (参考: FVK-20 セット)

通気管用防護蓋 (参考: HB-A (A))

(参考: HB-D (A))

2. 装置設置に於ける注意点 (各都道府県、各市町村によって異なる)

イ) 隣地境界から 1.0 m 以上、建屋基礎部から 1.0 m 以上。
(周囲に飲料水用の井戸がある場合は、別途所轄保健所等の協議が必要です。)

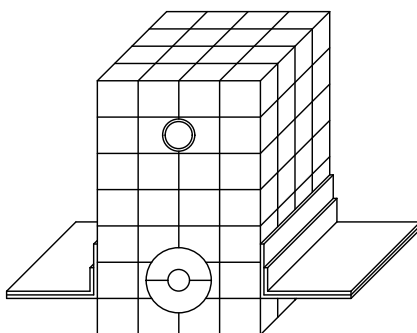
ロ) 雨水の流入がない所に設置して下さい。

雨水配管の確認と計画の調査

ハ) 土質の判断が困難な場合は現地透水試験を行い土壌の判断をして下さい。

ニ) 地下水位及び遊水が装置の底部よりおおむね 1.5 m 以内にある所には、設置しないで下さい。

※不明な点がありましたらご相談下さい。

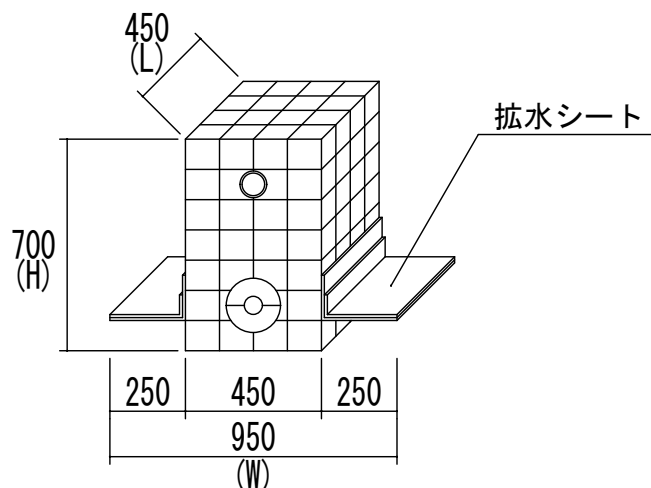


1. 装置の仕様・形状

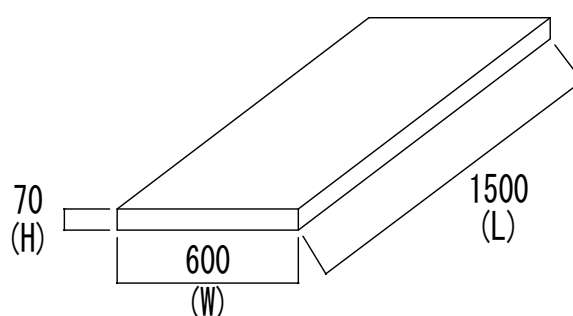
ユニットの形状

SRS-EPSタイプ

450 (W) × 450 (L) × 700 (H)



耐圧板 (1500 × 600 × 70 H)



2. 位置出し

イ) 合併浄化槽5人槽としての施工

$1000\text{ L} / \text{人} \cdot \text{日} \div 250\text{ L} / \text{基}$

≒ 4基として施工説明

ロ) ユニット幅 (0.45 m) + 排水シート幅 (0.25 × 2 = 0.5 m)

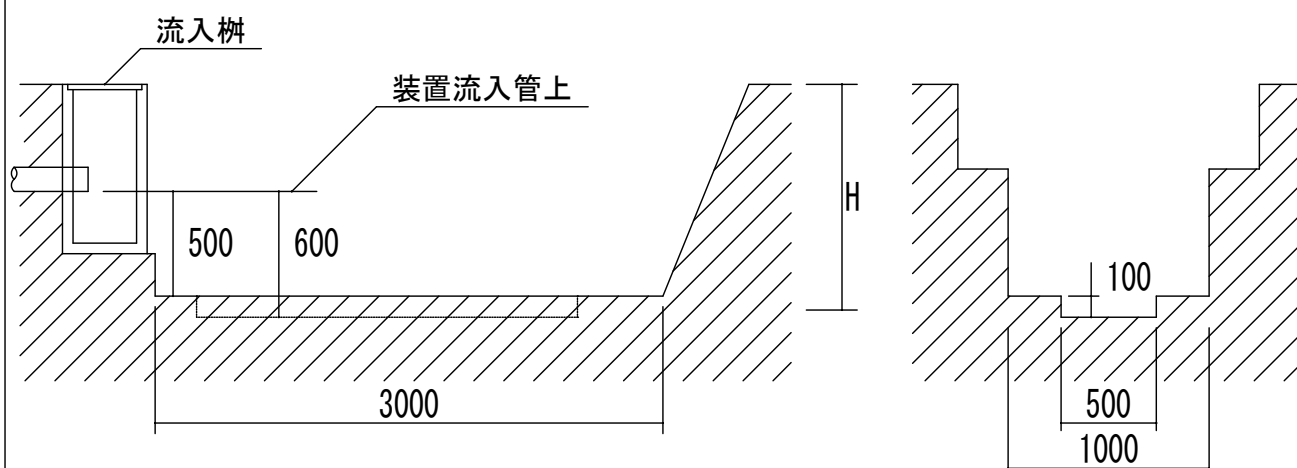
≒ 1.0 mを目安にして下さい。(掘削断面図参考)

ハ) 耐圧板幅 (1.5 m) + 余堀幅 (0.3 m) = 1.8 mを目安にして下さい。



※装置終末に検知管がセットされますので耐圧板4枚分 (2.4 m)
+ 0.5 ~ 0.6 mにて位置を決定して下さい。

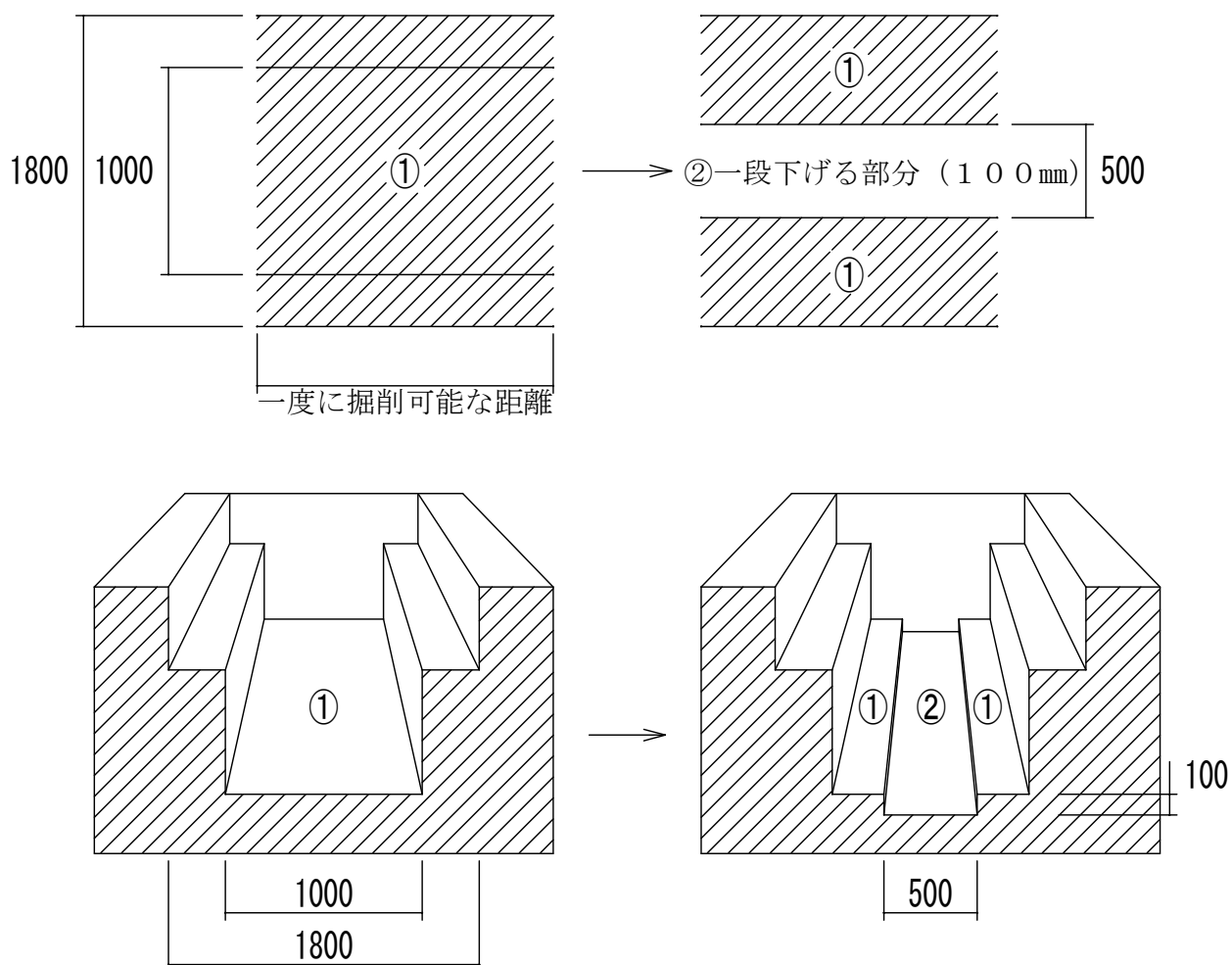
3. 掘削



イ) 床付け寸法は浄化槽の放流管底に合わせて決定して下さい。

けてポンプをセットし、ポンプアップにての施工となります。

ハ) 掘削方法は一度に掘削可能な距離毎に下図の様に、段掘をして下さい。



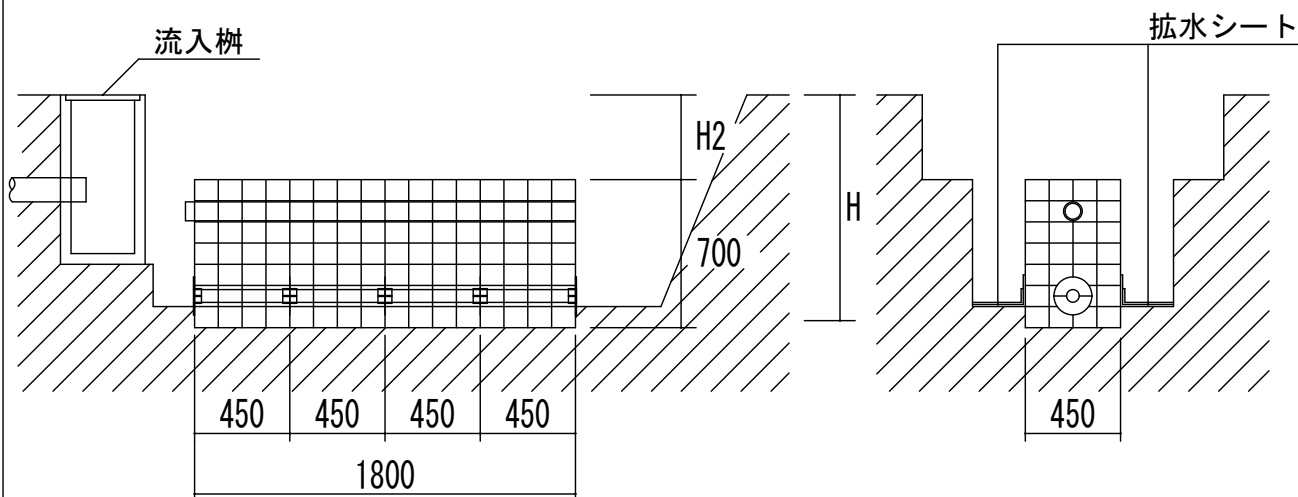
※掘削底部の不陸整正は確実に行って下さい。

拡水シート部分①は水平又は、先の部分が下がり気味に不陸整正を行って下さい。

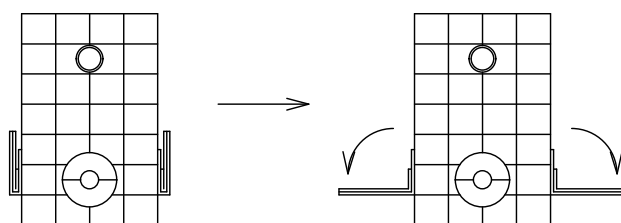
4. ユニットの設置（土被り深H 2は浄化槽放流管底にて調整）

イ) ユニット接続方法は N o 6 参照

ユニットの設置向きは装置下部のパイプが受口になっている方を流入柵側にして設置して下さい。

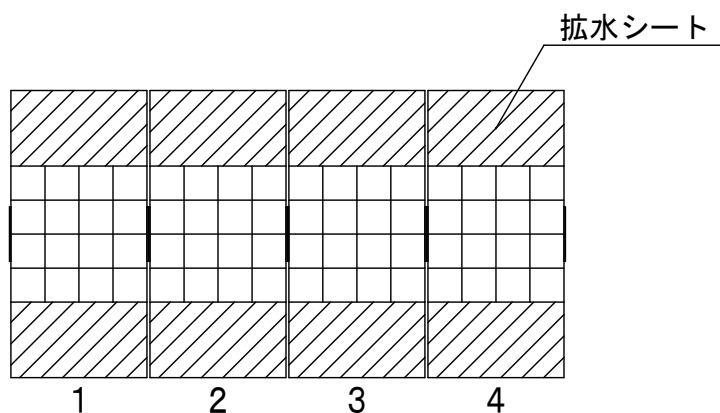


ロ) 拡水シートはユニットと結束してありますので、結束部を切り拡水シートを広げて設置して下さい。



※拡水シートは水平又は、先の部分が下がり気味に設置して下さい。

ハ) 拡水シートはユニットを1基設置する毎に広げて設置して下さい。

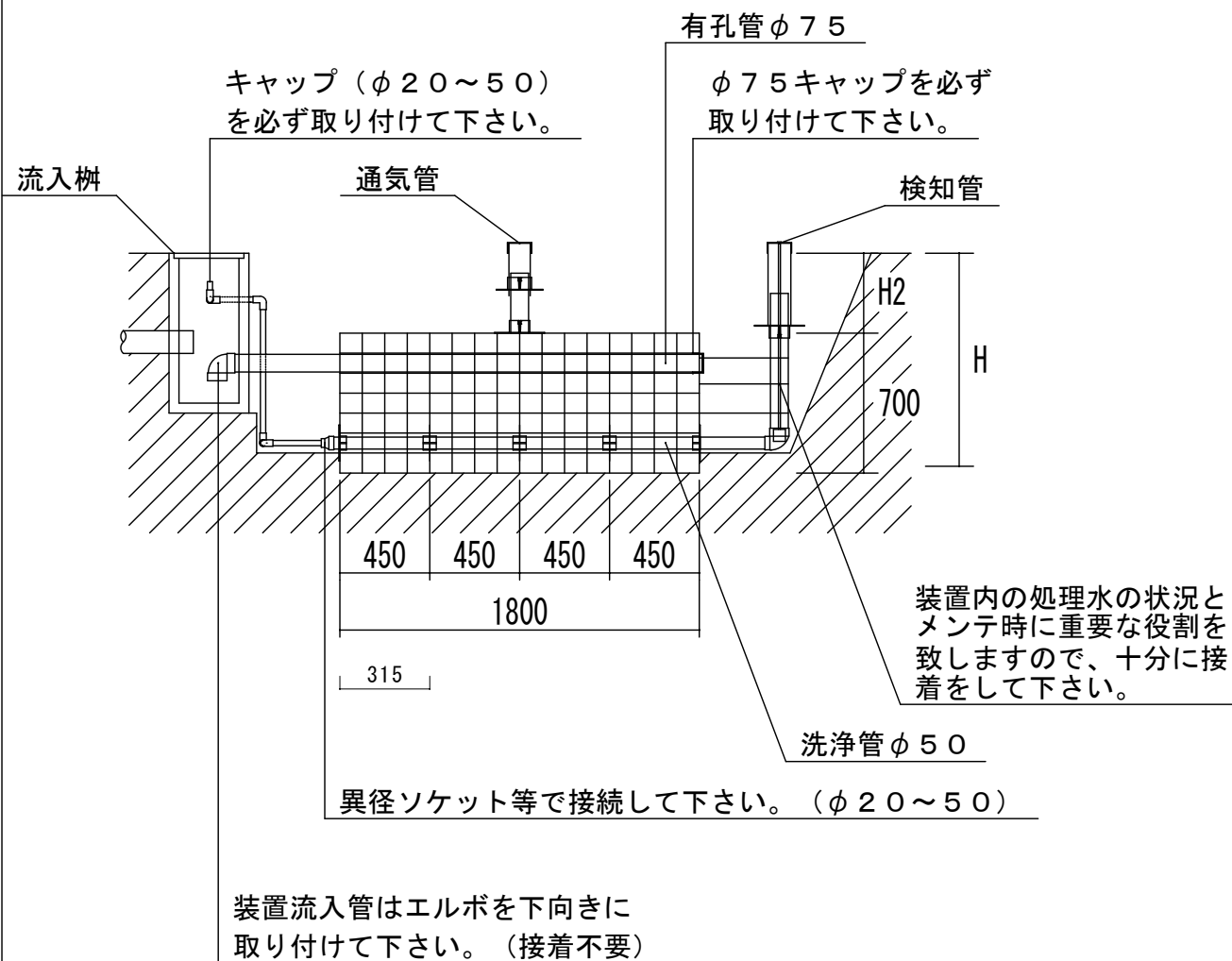


※拡水シートを広げる部分には乗らないで下さい。

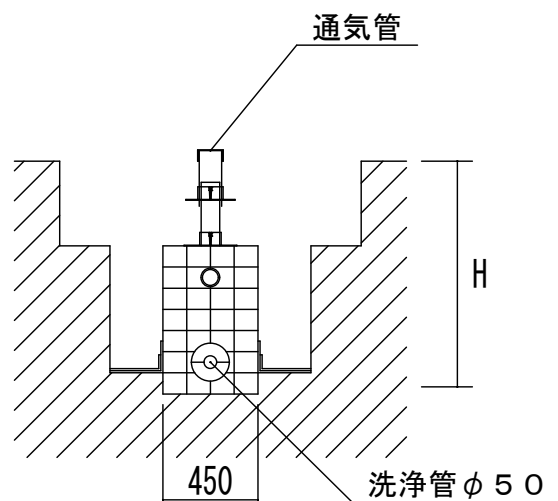
5. 流入桝配管、検知管・通気管の取付、洗浄管の設置

イ) 検知管・通気管の接続方法は N o 8・9・10 参照

ロ) 通気管は装置の中央部に設置して下さい。



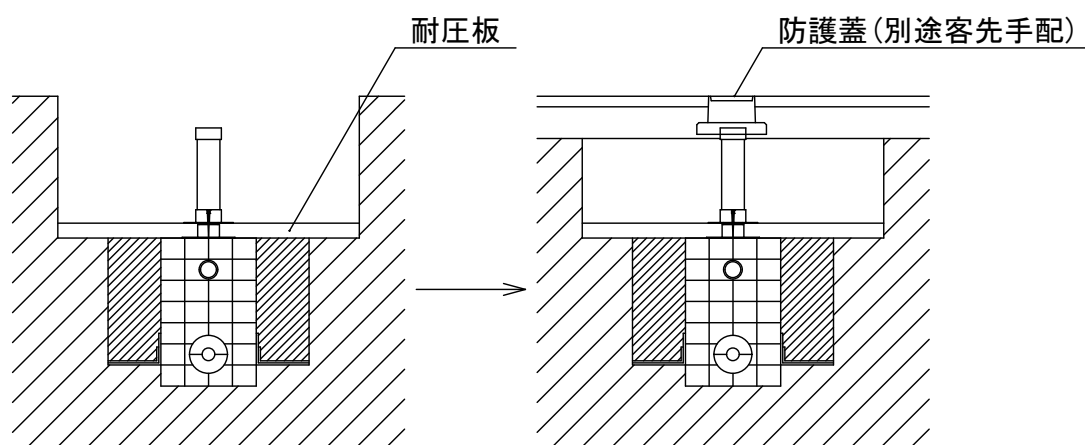
※検知管は必ずユニット底部 ($\phi 50$ のパイプ) に接続して下さい。



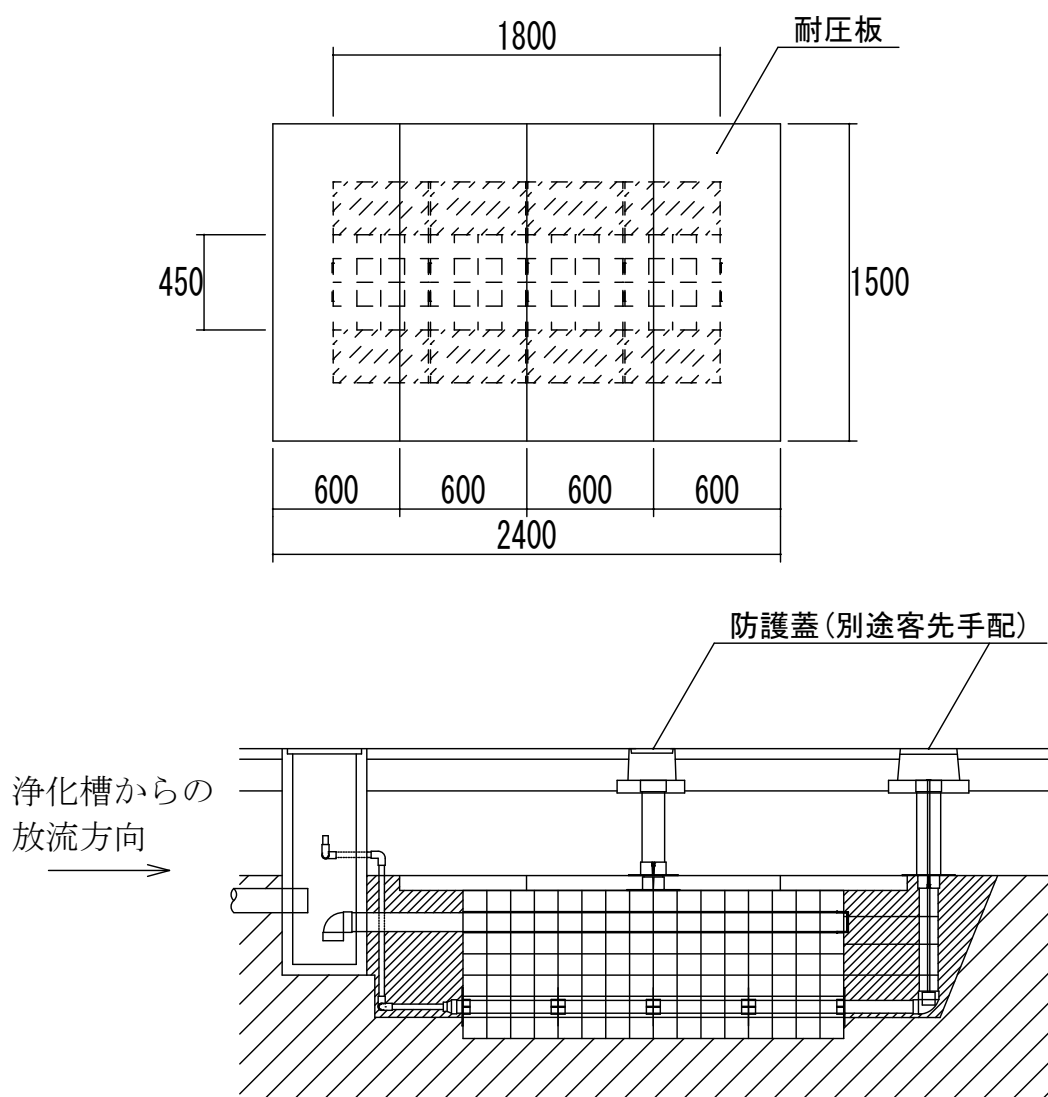
6. 埋め戻し、耐圧板の設置

必ず両側面より埋め戻しをして下さい。

両側面を埋め戻した後、耐圧板を設置して下さい。



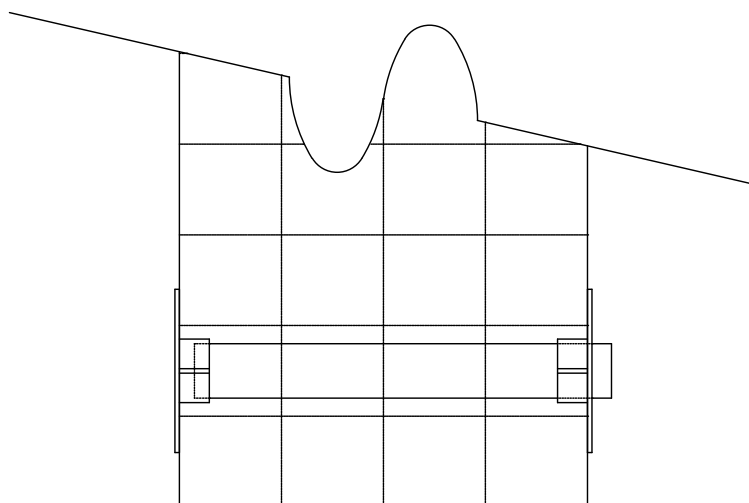
耐圧板はユニットに直交する様に設置して下さい。



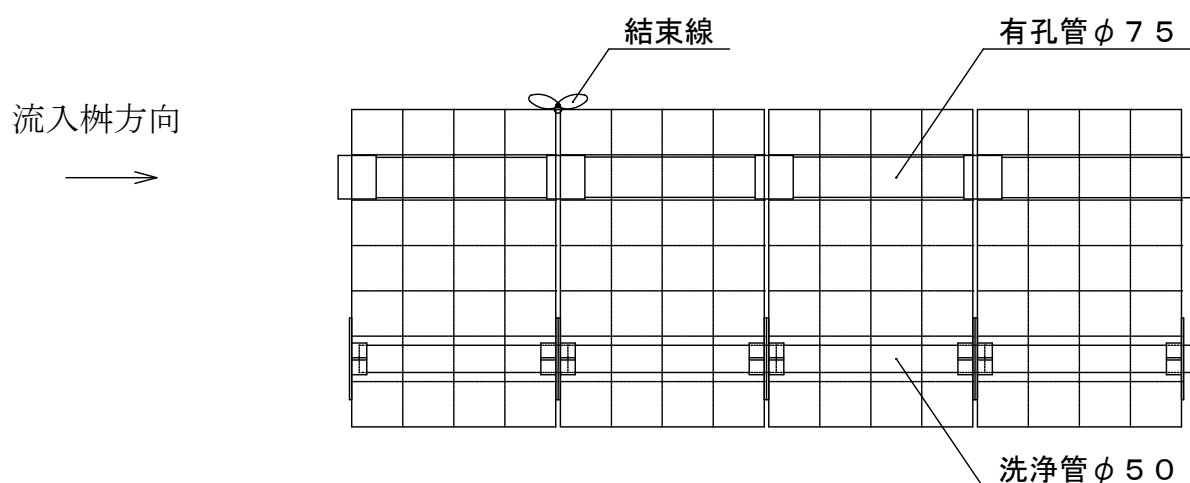
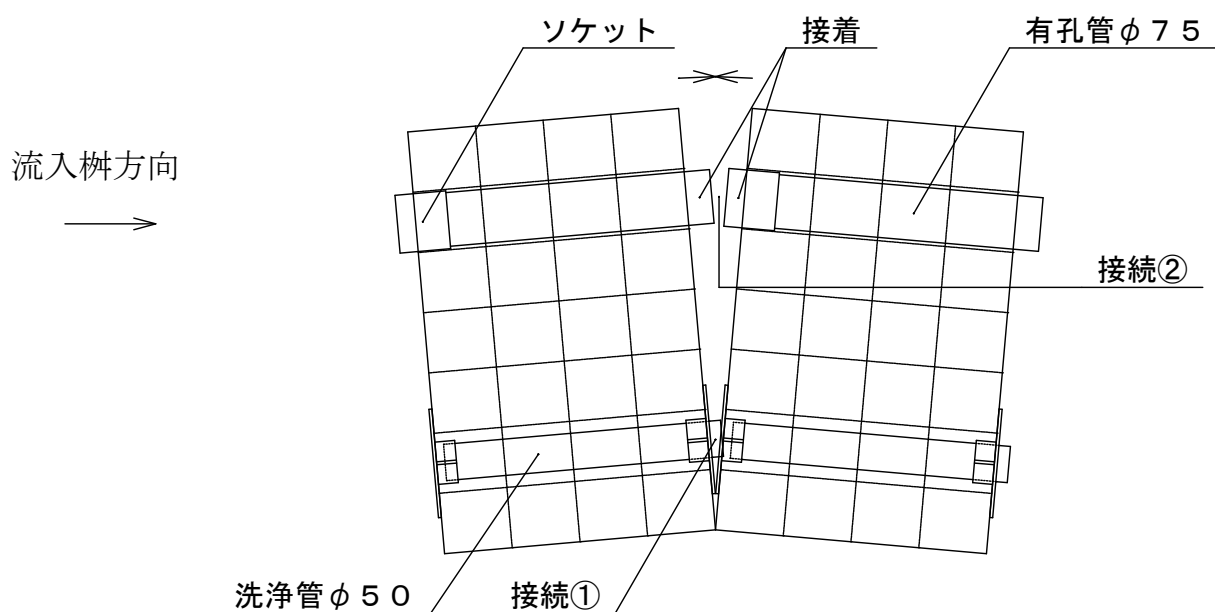
完 成 図

7. ユニット間の接続

- イ) ユニット下部の洗浄管は受口・差口になっています。
- ロ) ユニット上部の有孔管はソケットが付いていますので、接着して下さい。



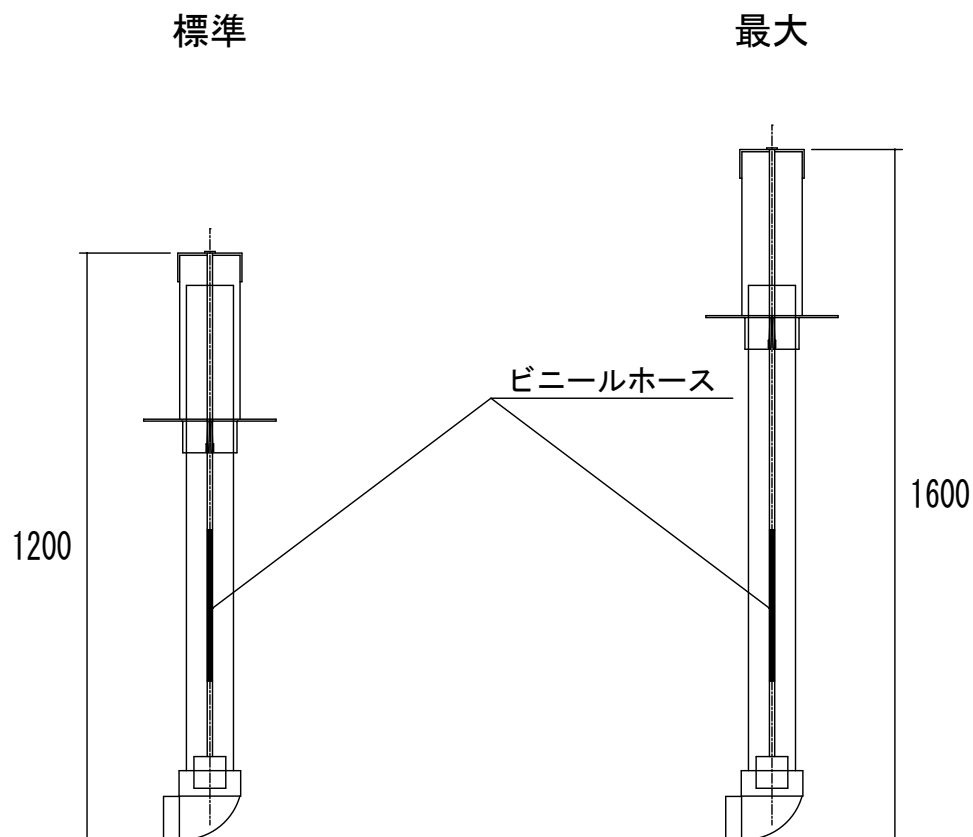
ユニットを下図の通り接続して下さい。
ユニットの上部を結束線等によって結束して下さい。



8. 検知管の説明

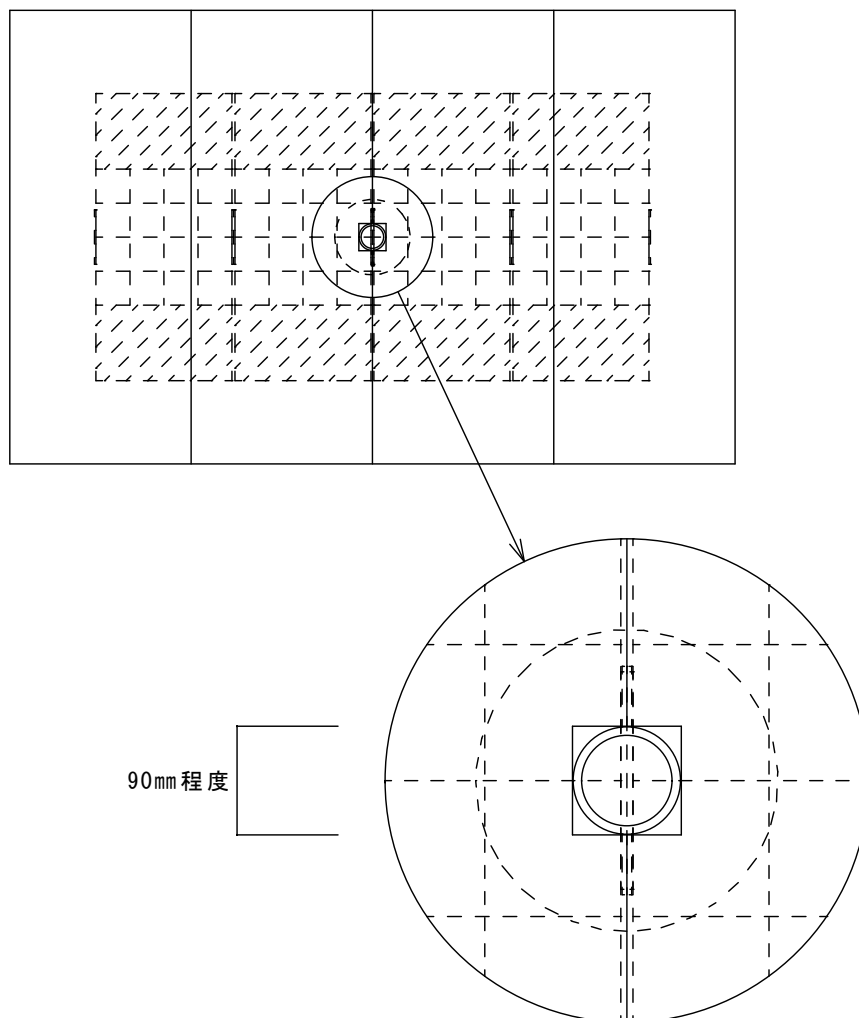
検知管の亚克力棒部分に延長用のビニールホースがついてますので、装置深さによって、ビニールホースの長さを変える事が可能です。

(最大400mm)



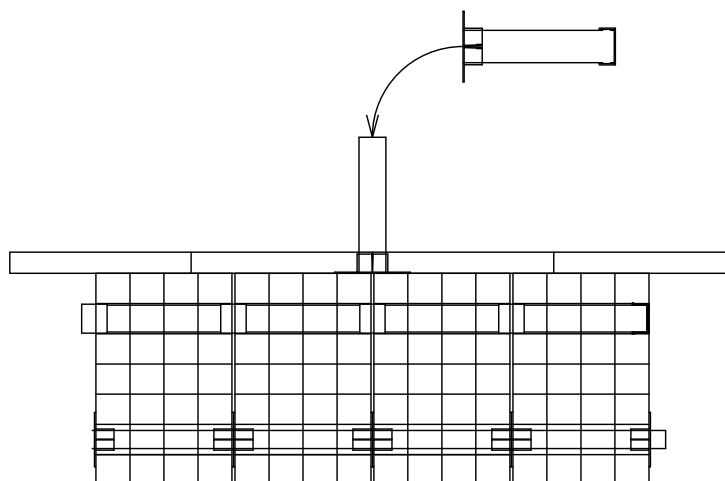
通気管の設置方法－1

通気管設置箇所の耐圧板をホールソー又は、サンダー等で切断加工を行って下さい。(ホールソー： $\phi 75$ 用 サンダー：90mm角)

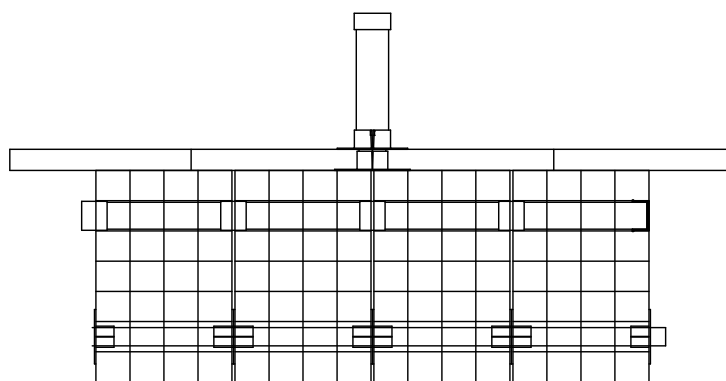


通気管下部($\phi 75$)を装置の上部に設置し、その上に耐圧板の設置を行って下さい。

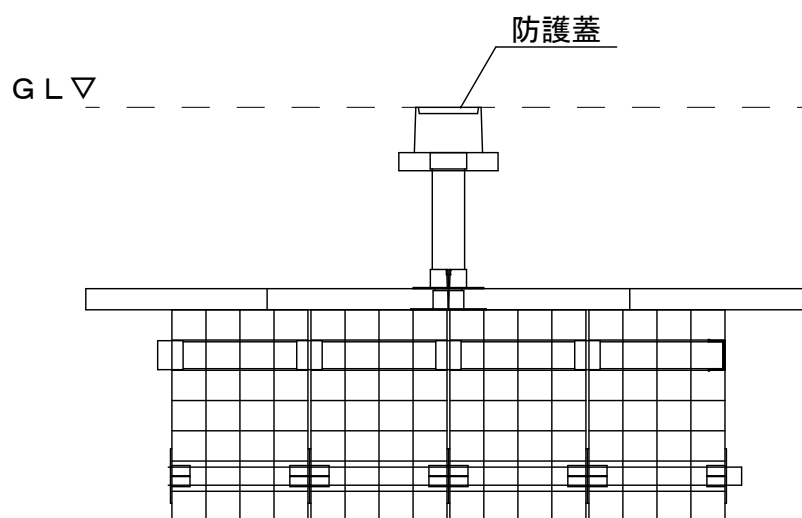
通気管上部のパネルを下へ移動し、耐圧板を挟む様に設置して下さい。



通気管の設置方法－２

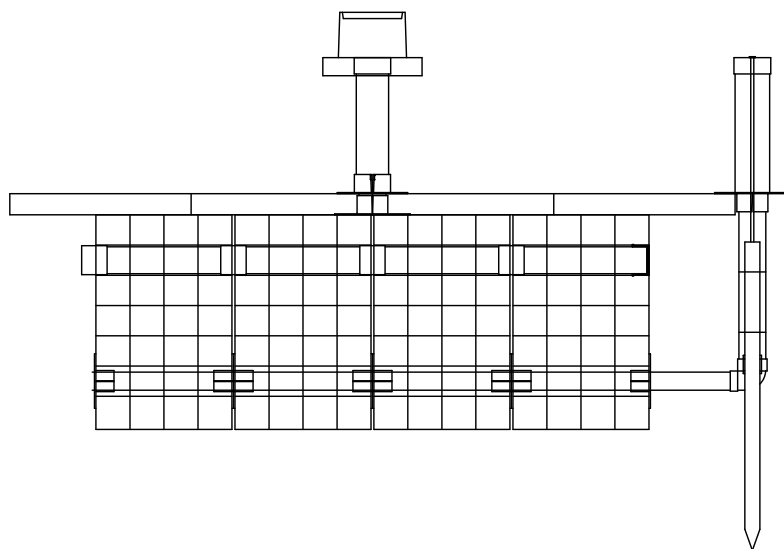


通気管を適切な長さに調整し、防護蓋を設置して下さい。



検知管の設置方法

耐圧板の延長が検知管の設置場所にあたってしまう場合は、装置下部についている $\phi 50$ のパイプを継手により延長して下さい。また、埋め戻しの際に検知管が前後左右に移動するなどの恐れがあるので、状況により添え木などで固定して検知管を設置して下さい。



検知管を適切な長さに調整し、防護蓋を設置して下さい。

